

避難訓練後の校長講話

本日の避難訓練は地震からの火災。という想定です。なぜこの2つがセットになるかわかりますか。1923年に起きた関東大震災は11:58分に発生し、当時昼食の準備で火を使っていた人が多く、木造家屋が密集していたこともあり、大火災に発展し多くの命が失われました。十万5千人の死亡者の9割が焼死でした。

1995年に発生した阪神淡路大震災は都市直下型の地震で、建物が多く押しつぶされました。冬の明け方で暗かったこともあり、電気をつけようとしたことで断線した電気系統から発火し、火災につながりました。再通電火災といいます。この地震では6千人以上がなくなっています。これ以降、地震が起き、停電となったら、電力会社は安全に電気が供給できることを確認できるまで、通電しなくなりました。地震の後に停電が続く理由です。

また、地震の際は水道管も破壊されるため、消火活動の水が確保しにくいこと。消防車などの緊急車両などが避難する人や倒壊する建物で走行しにくいことも火災が広がる要因です。

地震は地球のエネルギーの放出です。地震が人を殺すものではありません。現代社会の場合、建物の崩壊が、あるいはその後起きた火災が人の命を奪うのです。

地震は防ぐことはできませんが、建物の耐震強度を上げること。地震が起きたら火を消すこと。救援活動の妨げになるような行動を一人一人がとらないこと。津波を予測して早くに避難を開始すること。などで、救える命が沢山あることを覚えていてください。だから私たちはこうして訓練をするのです。

もう一つだけお話しします。2003年韓国の地下鉄放火事件で197名の方がなくなりました。煙が充満した車内で、普通に座っている人たちの写真が残っています。明らかに異常な状態なのに、誰も動かないからという理由で、皆じっと待っていて、そして亡くなりました。窓を割って外にできればいいだけだったのに。パニックになることは危険です。でも同時に危険が迫っているのに周囲を見て、同じ行動をとろうとしたり、自分にはこんなことが起きるはずがない。と思いこむのはもっと危険です。

災害は突然やってきます。部活動中かもしれないし、登校中、昼休みかもしれません。訓練は必要ですが、大前提は学校に居ようとどこに居ようと、自分の命は自分で守ることであります。火災でも、地震でも災害が起き、避難が必要なときはまず自分の命を守る行動をそれぞれがしっかりとってください。命より大切なものはありません。窓を割ろうと、壊そうとそんなことは問題ではありません。そうして自分の命が確保できたら初めて周囲の人を助けてください。それが避難の鉄則です。そのことを忘れないでください。

整然と避難する様子。体育館に集まり、私語なく待機している様子。本当に立派でした。訓練お疲れさまでした。